中国・樺太(サハリン)等残留邦人の体験と労苦を伝える「戦後世代の語り部」を派遣します。

「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」派遣事業

※サハリン地図：NPO 法人 日本サハリン協会サイトより

ご存じですか？中国・樺太(サハリン)帰国者と呼ばれる人たちのことを。
彼らが前半生を過ごした国からどのようにして祖国日本に帰り、
戦後75年以上を経た今、何を思うのか、
その体験を受け継ぐ「戦後世代の語り部」の声に耳を傾けてみませんか？

「戦後世代の語り部」と語り部派遣事業

「戦後世代の語り部」とは高齢化する中国・樺太(サハリン)帰国者の忘れ去られようとするその歴史の記憶を語り継ごうと、首都圏中国帰国者支援・交流センターの３年間の育成研修に参加し、委嘱を受けた人達です。世代も30代から60代までと様々で、帰国者の2、3世も含まれます。

語り部派遣事業ではその「戦後世代の語り部」を自治体や学校、団体等のご依頼に応じて当センターが全国に派遣します。

１回の講話では、語り部が一人の残留邦人の体験について40分程度お話しします。(講話時間についてはご相談に応じます)

語り部の講話風景

【厚生労働省委託事業】
首都圏中国帰国者支援・交流センター

派遣依頼のお申し込みについて、詳しくは当センターのサイトをご覧ください。
https://www.sien-center.or.jp/

「中国残留邦人等／中国・樺太（サハリン）帰国者」とは

1945年（昭和20年）当時、旧満洲（中国東北部）には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、居住地を追われ、逃避行中や収容所において飢餓や伝染病により死亡者が続出するという 悲惨な状況が生まれました。

このような混乱の中、肉親と離別して中国の養父母に育てられた子どもを「中国残留孤児」、現地の人の妻になるなどしてやむなく中国にとどまった女性を「中国残留婦人」と呼び、「中国残留孤児」「中国残留婦人」を総称して「中国残留邦人」と呼んでいます。これらの人達はその後も長年にわたって日本への帰国が叶わず、"残留" せざるを得ませんでした。

また、残留邦人の一部に樺太（サハリン）や旧ソ連本土に残されていた人もいるため、総称して「中国残留邦人等」と呼んでいます。

中高年となってようやく祖国の土を踏むことができたこれらの人達を「中国・樺太（サハリン）帰国者」と呼んでいます。帰国者の祖国での暮らしは、戦争の傷跡に苦しみ、一緒に帰ってきた家族とともに言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。

ロシア、ドイツにまたがるサハリン帰国者（前列中央）の家族

後に中国残留婦人となる姉と
行方不明となる弟（満洲時代）

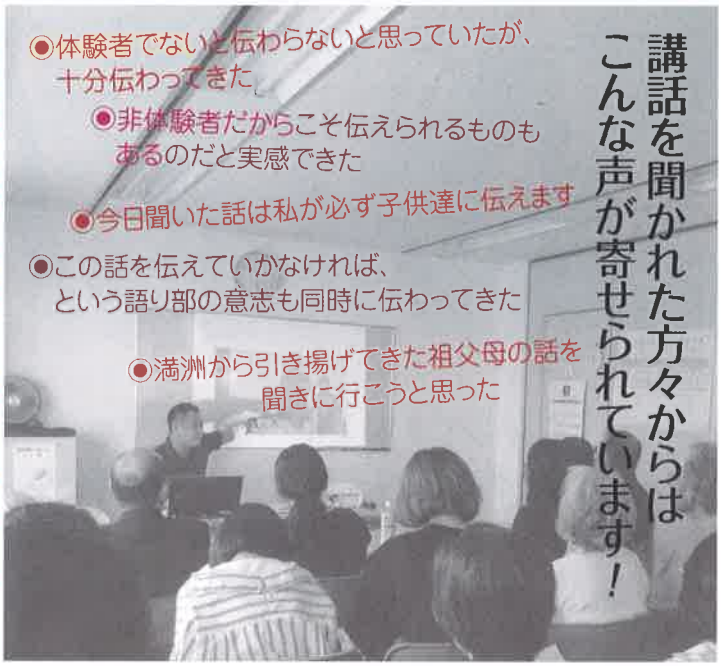
残留孤児の男性と仕事仲間
（トラックの正面、1960 年代、中国）

「戦後世代の語り部育成事業」研修風景

移動経路を地図で示す帰国者（右から二人目）

体験を語る帰国者

古い資料を見せて説明する帰国者（右下）



「戦後世代の語り部」派遣依頼のお申し込みは…

中国帰国者支援・交流センターのウェブサイトの
「戦後世代の語り部」派遣依頼申し込みに
必要事項を記載の上、FAX かメールでお申し込みください。

HP：https://www.sien-center.or.jp/kataribe/indexy.html

メール ：kikaku@sien-center.or.jp
Ｆａｘ ：03（5807）3174

◎ご不明の点はお電話を：03-5807-3171（火～日 9：30-17：45）

■ 首都圏中国帰国者支援・交流センター（首都圏センター）
〒110-0015　東京都台東区東上野 1-2-13 カーニープレイス新御徒町 7F